

刊夕日二十二月二



定価 一月五拾五圓 半年五拾圓 一年九拾圓  
廣告 五拾二字第一行金五拾圓  
日曜祭日の翌日休刊  
發行所 常磐毎日新聞社  
印刷所 常磐毎日新聞社  
電話 六二〇〇  
印刷部 常磐毎日新聞社

### 常磐炭田の開發と

片寄平藏 山口彌一郎

3 彌勒澤にて炭層發見  
それで平藏は九州の石炭塊を鑑定用にもらひ受け、燃える様な意氣と反面に是非あつて呉れ、

「ばよいがどの不安な心をもちながら、江戸よりの歸途に着いた。嘗つてくんのうこんは白水に出ると聞いたのを思ひ出し、白水は即ち泉であるよもや泉藩地内ではなからうかと言ふ疑も起り途中薄々泉藩地内に探りを入れてみたが、それらしい處も見當らず稍々不安氣に湯長谷藩地内磐崎村字藤原にかつた。そこで彼は高崎今造と會つた。今造は平藏と同村の大浦村字狐塚で當時若盛りの三十一歳、かねがね平藏に種々面倒を見られてゐる間柄で通常平藏を旦那様と呼んでゐた。田舎に於ての百姓も段々思はしくなくなり江戸にでも出て働いたら何んとかなるであらうとぼんやり江戸へ上る途にあつたのである。」

「旦那様今御歸りですか

「それは一體何んでござひます。旦那様の御仕事なら、何んでもやります」

「こゝで石炭の話打ち明けられ、今造も非常に興味を覺え、江戸へ上ることは思ひとまり、道々石炭發見の打ち合せ等をして湯本まで引き返した。當時湯本は村ではあるが仙臺までの唯一の温泉宿として相當のにぎはひをみせてゐた。平藏、今造の二人は新瀧旅館に落着いて「石炭は掘るのだから芋掘のつくしをもつて行くがよからう」と二人で探しに出るのも目立ち易いからと今造一人平町前の新川の上流白水川をさかのぼつて探した。當日はついに探し當てること出来ず、それとてたゞちに平藏の許に歸ることも出来ず、平町南の新堰（現在の内郷村御

「そんな格好では探し當てられぬ。川の上流の敷深く入らなくては駄目だ。仕度俺が貸すから今晩は宿つて明早探せ」と言はれて今造は好意を謝し一泊厄介になつて白水川上流の種々な模様を聞くことが出来た。今造は明朝早く山入りの仕度をして意氣燃えるが如く白水の川に沿うて上つた。

現在の阿彌陀堂附近で白水川が屈曲し急に深い峡谷となる。その谷底には石炭塊が見立つて多い。勇んで段々上ると今のトンネル西口不動澤附近で急に石炭塊が見當らなくなつた。これより上流にはない處を見ると支流の谷にあるに違ひないとその支谷彌勒澤に分けて行つた。何んところには黒々と八尺乃至九尺もあらが崖にあらはれてゐるではないか。今造は全く狂氣の如く打ち喜ろこんだであらう。早速數塊をたづさいて湯本に報おそしと待ちくたびれてゐる平藏にも報をもたらしした。時は安政二年六月のことである。平藏はたゞちに江戸に上る明石屋に其の旨を告げ資本は明石屋で負擔するから先づたゞちに數俵江戸へ運んでみよと言はれた。

一冊の代金で御希望通りな五冊の雑誌が自由に讀める川崎巡回文庫 電六三〇番 (申込次第規則書進呈)

謝恩と奉仕に燃ゆる大塚へ……  
靴!! 五圓以上一割引  
● 斬新なるスタイル ● 堅牢極まる品質 ● 精選された材料 ● 驚く可き廉價  
既に覇權を確立せる……大塚の靴  
御用は 平・田町 大塚製靴部 電話七十七番

明治廿八年設立 基礎堅實  
有給社員數名募集  
男女ヲ問ハズ奮闘家ハ來タレ 固定給及月收多希望者ハ午前中來談アレ面會ノ上相談ス。  
共保生命保險株式會社 磐城監督所  
所長 福島健之 平町白銀町一〇  
磐東代理店 主管 加藤 丈夫  
平代理店 主管 金子 豊吉

● 店員募集 (一、二、三名) 十五、六才より十八才迄希望者は至急御來談あれ  
小力字式極東蒸氣製造元  
小鍛冶兄弟商會 主 小鍛冶 永助 福島縣平町三丁目二二 電話 三三三番

耳鼻咽喉科専門 鈴木醫院 醫學士 鈴木 正男 平町田町(電話五八番) 藤田女學校前  
院長 醫學士 高久 忠 副院長 新潟醫學士 赤羽 清 藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄 平町田町 電話五一三番

新築感謝 萬年筆大賣出 舊二日よ景り品呈上  
記念金文字御名人無料 お氣に召す迄金ペン交換  
五ヶ年絶對責任付 定價二圓以上 品種類豊富  
平紺屋町角公園前 佐々木商店 電話二三三番

# 盛り澤山の

## 平豫算町會

### 上提議案廿一件

平町では既記の如く廿六日に豫算町會を開く筈であるが當日の附議事項は左の如くである

- 一、昭和九年度平町歳入歳出豫算
- 一、全年度平町特別會計基本財産歳入歳出豫算
- 一、縣稅營業稅雜種稅附加稅不均一課稅の件
- 一、町稅賦課稅の件
- 一、社團法人福島縣町村吏員互助會補給規定の件
- 一、町費寄附の件
- 一、町費補助の件
- 一、平商業學校學則改正の件
- 一、平商業學校學科課程及每週教授時數變更の件
- 一、平町三小學校授業料徴收規定改正の件
- 一、全授業料制限外徴收の件
- 一、平商業學校職員旅費減額支給規程制定の件
- 一、平町立小學校教員旅費減額支給規則改正の件
- 一、納稅獎勵規定中改正の件
- 一、寄附採納の件
- 一、町有地賣却の件
- 一、區長及區長代理者推薦の件
- 一、一時借入金の件
- 一、昭和七年度平町歳入歳出決算報告の件
- 一、全年度平町特別會計上水道擴張事業費收支決算報告の件
- 一、全年度平町特別會計匡救事業費收支決算報告の件

## 日の御子の

### 御降誕を奉祝

#### 出日各小學校に於て擧式

平町各小學校では明日午前九時より皇太子殿下御降誕奉祝式を擧行國旗を掲揚し國歌合唱、校長の奉祝辭、生徒代表の奉祝辭のブロードラムに依り一同聲高らかに奉祝歌を合唱すると

#### 才判受理件數 平區

才判所に於ける去月中の件數

付件數は民事四十八件、督促百四十件、仮差押仮處分五件、競賣二十六件、繰越未済民事百三十三件、合計三百五十二件であるが既済件數は民事五十件、督促百四十件、仮差押仮處分五件、競賣二十六件、合計二百一十一件で未済は百三十一件

## 平町の

### 會社調べ

平町役場で去る十二月現在により調査した平町の各種會社數は株式會社廿六、合資會社五十六、合名會社十

## 兩縣貫通す

### 喜びの勿來平瀉

#### けふ九面隧道開通式

關東北の關門一本縣と茨城縣をつなぐ縣境九面トンネルの開通

竣工式は本日午前十時から同所に於て盛大に催されたが本縣からは土肥土木課長臨席した喜びの勿來平瀉兩町では縣境を超へ協力して祝賀協賛會

を組織し祝賀大花火その他光彩を添へた同所は「勿來の關」ならぬ難關の個所として知られて居たが

#### 近年交通 頻繁になる

に從ひ不便を痛感した福島茨城兩縣が大正十五年次來開鑿工事を計畫、幾度か當局に陳情したが願望漸やく成つて工費總額二万六千五百圓で工費一切を本縣に委任され本縣一萬二千八百九十五圓、茨城七千七百二十圓を分擔、中山吉之助氏工事を請負が昨年四月二十日竣工式を擧げ

八、合計百の大小會社があり此の總資本金額は六百五十三万四千八百五十圓で前年度に比し株式會社三、合資七、合名四、計十四社、資本金五万圓を増加したが此の中には資本金二百萬圓の株式會社から資本金五百圓の合資會社等があり、それ活躍してゐる

尙道路は巾八米五〇、延長百九十七米七〇で勾配も緩和されカーブも殆んど取除かれ、全く隔世の感さへある。正に茨城、福島兩縣の交通史上に輝やかしき一エポックを劃して過去の難關路は今や昔の思ひ出話となつた譯で今日の地元民の歡喜の祝福や宜べなるかなである

## 豐間村長

### 知事が表彰

豐間村長鈴木藤治郎氏は昨年村長に就任前助役として十數年間同村自治の職に當つた功により此程畑山知事より銀杯を添へて表彰され

## 恩救の記念に

### 免囚保護劇を

#### 平自營會等が主催

平自營會及び檢事局警察署では共同主催の下に恩救記念事業として司法保護宣傳劇を開催すべく目下計劃を進めてゐるが大休來る三月九、十日の兩日聚樂館に於いて催す豫定である

## 郡内各校

### 俸給調べ

既報石城教育會では郡内各小學校に於ける職員及び児童數並に俸給月額の調査を行つたが各校別は左の如

植田	一〇九	二〇〇	三〇三
山田	六九	一五	七六
錦	六九	一五	七六
勿來	三三	二五	三七
同	三三	二五	三七
同	三三	二五	三七
川部	五九	一五	七五
上遠野	九六	一九	九四
入遠野	八五	一六	八一
田人	九六	一八	八一
湯本	一七七	三一	一四五

同	尋	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六	六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八	八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九	百
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---

内科 小兒科 花柳病科  
**藤沼醫院**  
入院應需  
町屋七番 電話五〇七

美味!  
芳醇!  
**宗正らひた**  
山崎合名會社 電話一〇番  
平町人事  
△田町六四根本トケ(三ツ)

# 賞勳局より 褒賞さるる

## 平町奇特者に

今回社會公共事業のため私財を寄附した平町の左記諸氏に對し賞勳局より褒賞あり近く傳達式舉行の筈

▲平町小學校基本財産に百圓宛寄附—平町加藤富三郎、同岡田千藏、同百澤才八郎、同鷲崎正見

▲平第二校備品費に二百圓寄附—平町辰野賢造

▲平第二校備品費に百圓—夏井村矢吹彌衛門▲平第三校生徒就學獎勵資金に百圓—平町平松茂▲平町費に五百圓宛寄附金成國

## 植林功勞

### 川前に金馬簾

川前村消防組では昨年中同村小學校所有林の植栽事業に全員が出勤し事業の完成を計つたので此程警察部長より金馬簾一條を授與された

# 忠勇の士

## 靖國神社に合祀

### 郡内の三柱

来る四月に「花の都」で行はれる靖國神社大祭に際し新たに護國の鬼として合祀される忠烈の將士につき第二師團司令部では先頃より管下全般に亘つて調査中であつたが此程終了二十日陸軍省に上申したが内本郡關係左の如し

△高久村近藤一 二等兵  
△上小川國井次安一等兵

△永戸村藁谷清一上等兵  
師團長官が—東久邇平驛御通過—第二師團長官は御上京の爲今晩午後二時二十三分の急行にて平驛を御通過遊ばされた

第二學力考査 平第二小學校では明日五學年以上の第三學期學力考査を行ふ

## 鮫川堰總會

二十六日に

石城郡鮫川堰普通水利組合では二十六日午前十時から三十六回通常組合會を開催九年度豫算八年度決算に就き協議する

## 四倉組頭會議

四倉署管内消防組頭會議は昨日午前九時より同署内に開かれ退職組頭に銀盃授與

## 海底爆破の 振動で内臓出血

### 優秀潜水夫遂に逝く

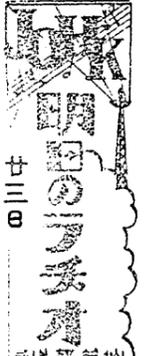
江名町字仲ノ作漁港修築事務所の潜水夫千葉縣安房郡長尾村生れ當時小名濱町字米野居住堀内幸太郎(三)は昨日午後四時頃同港海底に潜り岩盤の破壊作業中設置したダイナマイトが身邊近くで爆發した爲めその振動で内臓出血を起した外左足腰部を骨折して人事不省に陥り救助され直に平町上田病院へ運ばれ應急手當を受けたが同夜九時絶命した向原因に就いては目下平署で取調中であるが同人が海底の岩盤に火薬を装置し現場を離れてから船上の電気スイッチを入れて爆發せしめるのを船上のスイッチ係佐藤某との連絡が悪く此難遭つたものらしいと同潜水夫は日給四圓五十錢で縣下有数の優秀な腕を持つた潜水夫であつたと

## 無慘な 女の轢死體

### 年齢廿八、九歳 身元が判明しない

本廿二日午前六時頃湯本町字八仙地内小野田炭礦専用鐵道線路に腹部を轢断され

廿八、九才の婦人の慘死體を通行人が發見平署に急報したので係員檢視し



## 今晚の部

後六、〇〇 子供の時間  
名作物語「ガリガア旅行」  
記一堀英四郎  
後七、三〇 講演「オーストラリア」  
動亂と國際  
政一局信天淳平  
後八、〇〇 獨唱 藤原義

江  
後八、三〇 俚謠 有海喜  
久治連  
後八、五〇 連續講談「小金原の仇討」(一)龍齋貞山  
後九、三〇 時報 ニュー  
氣象通報 番組預告

## 卒業生四名

### 實業公民校の 平商業學校内實業公民學校

たが身元が判らず原因其他不明である

## 政府買上米 全部納入合格

### 昨日平倉庫の検査

石城販賣利用組合平農倉庫では昨日一日同倉庫内の政府買上應募米千俵の納入検査を行つた結果一俵八圓五十二錢を以つて全部納入決定したと尙當日行はれる筈であつた共同販賣入札は本廿二日に延期された

## 久留島氏が來郡

### 高齢者にお囃し

小名濱校の竣工祝賀  
き東京より童話界の泰斗である久留島氏を招聘して全町の高齢者に興味多い講演をきかせると

## 裁判所たより

△双葉郡浪江町大字權現堂無職遠藤鶴松(三)同富岡町大字郡山字前澤農堀川吉之

## 明日の部

前七、〇〇 基礎英語講座  
(二十一)岡倉由一郎  
前九、一〇 料理献立「鰻ブレイ」朝倉長吉發表  
前一〇、三五 家庭講座  
「紫外線と都會」兒童ノ健康醫學博士宇都宮信夫  
後八、〇〇 琵琶 常盤御前永田婉水  
後二、〇〇 家庭講座「盲久の教育に就て」東京盲學校長片山昇  
後五、三五 受驗講座「和

## 平職業紹介所報告

- 求人を求める方  
△外交員 三十前後 高卒 給料面談  
△外交員 三十迄 高卒 給料面談  
△鮮魚雜夫 三十以下 卒 月十圓 外面談  
△商店雜役 三十迄 尋卒 年百圓
- 回職を求める方  
△事務員 十九才 商業卒 給料面談  
△小使 二十五才 尋卒 給料面談  
△給仕 十七才 高卒 給料面談  
△小使 三十四才 尋卒 給料面談  
△事務員 二十八才 高卒 給料面談

# 銘劍秘又録

【禁無斷轉載上演映畫】

寶馬琴演  
山本英春畫

第百六十三回 徳川家に崇る村正

一寸の際に見失ふ

八丁堀の同心鈴木重太郎が次の間から様子を窺つてゐるとも知らず、廣間の五人連れの武士は飲みよ唄へよと騒いでゐたが

○「サア各々この位にして此處を引き上げ吉原へ行つて、馴染の女を喜ばしてやらうでは御座らぬか」

○「そうだ、それが宜いな」

女「オヤもうお立ちでございませうか、吉原へ行くにはまだ早いではございませうか」

○「イヤこれより参つて仲の町の茶屋へ行つて、一騒ぎするのだ」

女「成程それも亦宜しうございませうね」

○「サア早く勘定をしてくれ、それから駕籠を五挺詔らへて貰ひたい」

女「畏りました、有難うございませう、又どうぞ近い内にゐらつしやつて下さいませう」

○「オウ又来るぞ」

隣の客は吉原へ行くと言ふから、重太郎は自分も駕籠を一挺頼み、何時でも後を尾けられるやうにして、つてゐる。その内に、ドヤ

見失はぬ程度でやれ、自分は御用の者だ」と、幾分かの手當をやるからか、屋二人も心得て、その後から見えがくれに付いて行く、やがて参つた大門口、五人連はモウかごを下りて、仲の町を真直ぐに

大勢の女達に送られて五人連は玄關から駕籠に乗り、藏前橋の方を指して飛んで行く、頃合を見計ひ重太郎も駕籠に乗り、その後を追つて行く事になつたが駕籠屋に言ひ含めて源「五挺のかごに近寄らず



何か高聲に話しながらブラリと行く、重太郎もかごを歸して、仲の町の茶屋で騒ぐと言つたが、何處へ上るのかと思つてゐると何處へも寄らない、角町の角から曲つて兩側の張見世をからかひながら行く、人混みになつてから重太郎は段々近付いて先方の様子を身分あるものに見えろが、その言ふ事の下卑である事一通りではない、愈々これは怪しいと思つてゐると、秘密のある者の常として折々振り返つては左右を見廻す、源「之にいけぬ勘付

草を喫つて返し、五人は如何にと見るとツイまだ二三軒先に女をからかつてゐる○「モシお武家さん、何をキヨロ／＼してゐなはるのさもつと此方へ寄りなましよ」

格子の間から手を出して重太郎の袖をつかんだ重「コレ／＼何を怪しからん奴だ」女「オヤ嫌だよ、芥子が辛いも何もないやねえ、サア登樓つておきなはいよ」重太郎袖を引かうとする格子へ絡んで其の上を押へてしまつたから、却々取れない

源「コレ／＼勘辨して放してくれ、一寸今日は急用があるのだから」女「長くは引きとめまへんよ、一寸でいゝからさ」重「イ、やさうしては居られんよ」

其處へ妓大と稱する者らしい男がやつて来て男「エ、旦那様多分の散財はおかけ申しません、折角花魁がア、やつてお頼みして居るものですからへ、重太郎當惑してヒョイと振り返つて見ると、もう五人の姿が見えない、見失つてはこれまで来たのが水泡に歸する、身分を言ひたかないがこの場合據らなから重「コレ若い者耳をかせ」男「ヘエ、何んとも御相談に乗りますでござい

重「拙者は八丁堀の役人だが追込みがあつてこれまで参つたが、取逃してはならぬのだから放せ」男「ヘエ御冗談で」重「冗談ではない、懐中をヒョイと若い衆が懐中を見ると成程朱房白磨きの十手が一寸見えた、男「イヤこれはどうもとんだ粗忽で、旦那様の様子か變つて居りますので」重「それ故咎めは致さんから早く放せよ」男「畏まりました、エ、花魁衆、いけません、旦那衆で……」女「エ、ツ旦那衆」女郎は吃驚して袖をはなす「どうぞ御勘辨を」といふ聲を聞き流して、急いで角町から水道尻の方へ行つて見たが、何處かの家へ登樓つたか、それとも亦仲の町の方へ出てしまつたか、影も形も見えない。

**木村外科科**  
花柳病科  
専門門  
院醫科外村木

自炊入院の便あり  
平町五丁目橋際  
電話三九〇

**吉田眼科病院**  
眼科専門  
院長 吉田 安雄  
醫學士 吉田 久雄

理想の治淋薬出現す  
一般官薬、熱療器類に不満を感じた患後の良薬として本薬を紹介いたします。  
●本薬は有り觸れた白濁油系統の平凡薬でなく、独自の注射原薬を主剤とし外に洋薬及漢薬数種の特効成分と利尿薬が配合され特に胃腸腎臓障害等の副作用を絶無ならしめた安全薬で又錠劑で有ります。

**日本一の三鱗豆炭**  
最も新しい燃料……三鱗豆炭の御試用を願ひます  
火附のよい事木炭同様  
(専用の器具不用)  
燃料費は各種燃料の三分の一  
……炊事場、料理店に最適  
三鱗豆炭海岸線一手販賣元  
大谷石販賣店 住吉屋セメント店  
酒井 伴 城  
平驛前(電話六六一番)

配合原薬注射内服殺菌強力  
**ザロス**  
淋病 消渴 淋病

分用 ¥2.00  
症用 ¥3.00  
重症用 ¥5.00

特約店 阿部薬舗  
平町四丁目(松月堂向イ)